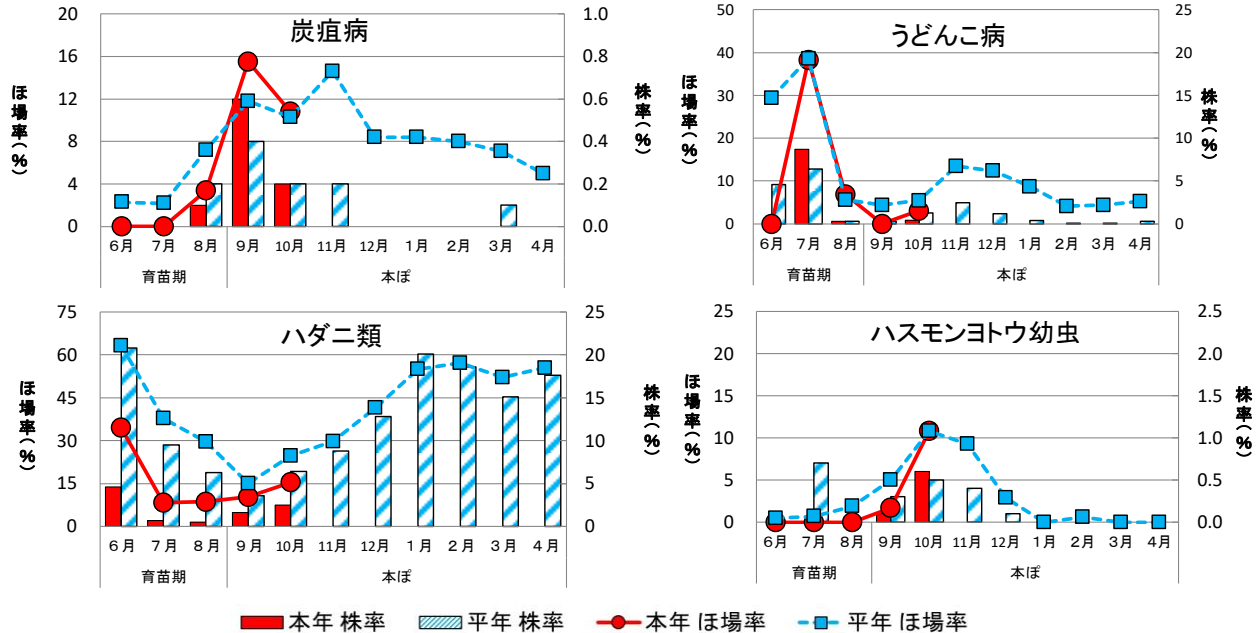


いちご病害虫情報第5号（10月）

令和3（2021）年10月22日
栃木県農業環境指導センター

■ 病害虫の発生状況

- ・炭疽病の発生は平年並みで、うどんこ病の発生はやや少ないです。
- ・ハダニ類の発生は平年並みで、ハスモンヨトウ幼虫の発生は平年並です。



※ほ場あたり25株調査 ※株率(%)：発生株数／調査ほ場数×25株 ※ほ場率(%)：発生が確認されたほ場数／調査ほ場数

■ 主な病害虫の発生予想と防除対策

1 うどんこ病

- (1) 発生予想 ・発生量：平年並
- (2) 対策 ・軟弱徒長すると発生しやすくなるので、温度管理やかん水を適切に行う。
・ほ場を良く観察し、発生が見られたら、薬剤を葉裏によくかかるよう散布する。
・寒暖差による結露に注意する。

2 ハダニ類

- (1) 発生予想 ・発生量：平年並
- (2) 対策 ・ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
・薬剤抵抗性の発達を抑制するため、気門封鎖剤や天敵製剤を積極的に活用する。化学農薬を使用する場合は、IRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
・気門封鎖剤は卵に効果が低いため、5日程度の間隔をおき、複数回散布する。
・天敵導入時にハダニ類が多いと失敗しやすいので、天敵導入前に気門封鎖剤や天敵に影響の小さい薬剤を散布し、ハダニ類の増殖を抑制しておく。
- (3) 備考 ・[ナミハダニ薬剤感受性検定結果を当センターHPに掲載中。](#)

3 アザミウマ類

- (1) 発生予想 ・発生量：平年並
- (2) 対策 ・低密度のうちにカウンター乳剤等のIGR剤を散布する。被害が大きくなる恐れがある場合には、スピノエース顆粒水和剤等を散布する。
・10月中旬までに開花が進んでいるほ場では、秋期のアザミウマ類の飛び込みが多くなる傾向にあり、翌年春以降の発生につながるおそれがあるので、防除を徹底する。
- (3) 備考 ・[防除のポイントNo.19を当センターHPに掲載中。](#)
・[アザミウマ薬剤感受性検定結果①を当センターHPに掲載中。](#)
・[アザミウマ薬剤感受性検定結果②を当センターHPに掲載中。](#)

■ 今月のトピックス ヨトウムシの見分け方

イチゴの葉を食害する蛾の幼虫は主に、ハスモンヨトウ、ヨトウガ、オオタバコガの3種類です。これらは見た目も大きさも似ているものの、適用できる農薬の種類や効果、抵抗性までもが異なっており、注意が必要です。今月は、これら3種の蛾の幼虫について効果的な防除を行うために役立つ、簡易的な識別方法を紹介します。

1. ハスモンヨトウ

毛で覆われた卵塊から生まれ、若齢のうちは集団で葉を食害します。やがて体が大きくなってくると周囲の株へと分散し、昼間は土中や地際に隠れるようになります。薬剤も効きづらくなるので、若齢の集団でいるうちに防除しましょう。

頭の後ろに1対の黒い斑紋があるのが特徴です（若齢のうちはありません）。

2. ヨトウガ

ハスモンヨトウとは異なり、卵塊は毛で覆われません。見た目はよく似ていますが、頭の後ろに黒い斑紋は現れません。また、若齢幼虫は尺取虫のような歩き方をするので、ハスモンヨトウと区別できます。

3. オオタバコガ

1粒ずつ産み付けられた卵から孵化するので、若齢のうちから単独で食害します。ヨトウムシ類とは異なり、体表面の毛が太く、毛穴が隆起するのが特徴です。

表1 特徴の一覧

害虫名	体長	見た目	歩き方	卵の形
ハスモンヨトウ	~40 mm	毛が目立たない 黒く目立つ斑紋がある	這って歩く	卵塊 毛で覆われる
ヨトウガ	~50 mm	毛が目立たない	尺取虫のよう (若齢)	卵塊
オオタバコガ	~40 mm	毛が太く目立つ 毛穴が隆起する	這って歩く	1粒ずつ



図1 (上から) ハスモンヨトウ、ヨトウガ、オオタバコガ(中~老齢)

【注】体色は緑~茶褐色まで様々です
(写真は緑系個体)